

「情報処理学会論文誌：教育とコンピュータ」の 編集にあたって

重田 勝介^{1,a)}

1. 第3巻第3号の刊行にあたって

本年4月より編集幹事を務めております。微力ながら情報処理学会論文誌「教育とコンピュータ」の発展に貢献できますよう努力する所存ですので、どうぞよろしくお願いたします。

さて、本トランザクションは本年2号目の発行となります。年3回の発行を計画しており、順調に第2号を刊行することができました。ご投稿いただいた皆様、査読をはじめとする編集作業にご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

本トランザクションは、情報技術を活用することにより教育学習活動の改善・向上に資することを目的とした研究や、情報教育に関連する研究の成果発表の場を提供するために発行されている論文誌です。研究および実践の対象となる分野は、情報教育から初等中等高等教育におけるICT(情報通信技術)を活用した教育学習と大変幅広く、開発の対象も教育コンテンツ、教育学習支援に資するe-learningシステムなどのプラットフォーム、遠隔教育システムなどが想定され、非常に多様です。そのため上記対象の視野に入る研究論文を幅広く受け付け、該当分野の研究を活性化することを目指しております。編集委員会としまして、引き続き懸案となっております査読期間の短縮化、査読システムの見直しによる編集作業の効率化などに努めて参る所存です。当該分野の研究者の皆様には引き続き積極的なご投稿をご検討いただき、また編集および査読作業に関わられている方々には編集作業へのご理解ご協力をお願いしますと幸いです。

2. 本号掲載論文の紹介

本号では4編の論文を掲載しています。

- 招待論文「新しい時代の大学図書館のありかた—情報技術による支援を中心として」は、我が国におけるこれからの大学図書館が担うべき役割について述べています。ICTの普及にとともなう教育および研究方法の革

新と、大学図書館がこれまで進めてきた、ラーニング・コモンズの整備やWeb発信を始めとする新しい取り組みおよびICT環境の整備を結び付けながら、大学図書館における業務の更なる高度化と大学間連携含めたあり得べき取組みについて提言しています。

- 招待論文「ICTが可能にした新しい外国語学習(「声」中心の学び方)」は、大阪大学におけるドイツ語初級クラスでのICT活用、特に声を出すトレーニングのためのICT活用法について触れながら、第二外国語学習にICTを効果的に活用した教育実践について述べています。学生の学習意欲を喚起するためにスマートフォンやタブレット端末を使うことで、言語習得の達成度確認とフィードバックを効果的に実施する手法が紹介されています。また実践研究として、学生のコメントからこの取組みが学習の意欲向上に寄与していることを示しています。
- 「データベースと情報システムを学習する授業の提案と実践」は、高等学校の情報教育におけるデータベースや情報システムをプログラム体験実習により学習する体験的な授業シナリオを設計し、実際に高校の授業で実践し評価した教育実践研究です。学習環境としてオンラインで学習できるsAccessやPHP言語で書かれたレジシステムを利用しながら、データベースが企業やインターネットなどの情報システムの裏側で活用されていることを体験的に学ぶことができる教育プログラムを提案しています。さらに、生徒のアンケートから本取組みの有効性を裏付けています。
- 「高等学校における複数言語によるプログラミング教育の提案」は、高等学校の情報教育において情報機器がどのような仕組みで動いているのかを理解するために、複数の言語を用いたプログラミング教育を実施し、その成果と課題を報告した教育実践研究です。学習の導入にドリトル、クライアントサイドの理解にJavaScript、サーバサイドの理解にPHPを使い分け、高校生の理解を助ける学習用ツールを使うなど、学習者に配慮した教育プログラムを提案しています。さらにこの授業の効果を生徒のアンケートから明らかにしています。

¹ 北海道大学
Hokkaido University, Sapporo, Hokkaido 060-0811, Japan
^{a)} shige@iic.hokudai.ac.jp